

私は政清会を代表して、請願第1号野田市における土曜授業中止を求める請願に反対の立場で討論いたします。

この請願は1年前の3月定例会において、ほぼ同様の請願趣旨の請願項目が審議されており、その際、我々政清会は土曜授業については、中断を意味する中止ではなく、真に子供たちの将来のための最適解と教員の負担軽減を含めた検討の結果として、将来的に存続するのか廃止するのか、しっかりと結論を出すべきであるとして反対しております。今年度の土曜授業は、ほとんどの学校が年5回から6回と回数を減らして実施され、現在、アンケート等を通じて、結果や成果を検証している段階であります。子供たちや保護者の中にも、土曜授業の有効性を認め継続を望む意見と廃止を求める意見など賛否が分かれている状況であり、検証の過程である現時点において軽々と結論を下すものではないと考えます。

また案文には、7月、9月の猛暑の中、僅か3時間の授業のために登下校することで、体力的にも負担を強いられている子供もいますとありますが、昔と違って教室にはエアコンが設置されているため、家庭よりも学校の方が快適な環境となっている子供たちにとっては負担ではない状態であり、さらに言うならば、7月に1回だけ実施した学校が4校、9月に実施した学校は14校で1回ずつと、暑さによる体調面もしっかりと考慮されて実施されております。子供たちの疲労感については、土曜授業を実施していない全国の学校の子供たちでも言われていることであり、家庭での睡眠時間の短さや朝食の有無、習い事の過多や日頃の運動不足など、様々な要因が重なった結果であると言われていたにもかかわらず、この案文では、さも土曜授業を中止すれば子供たちが生き生きとするかのような表現は、少し楽観的であるように考えます。

確かに土曜授業を実施している自治体は県内では野田市だけ、全国的にも約1割と少数派であり、新しく野田市に赴任してきた教員にとっては、案文のとおり土曜授業のための準備、調整に要する時間は、他市よりも多くかかるのかもしれませんが。しかしながら、教員が土曜授業で出勤した分は、夏休みなどに振り替えて休日が取れているとのことであり、

翌年度の授業に備えて準備や調整をしたり、授業の質を上げていく努力をしたりすることは、土曜授業の有無にかかわらず全ての教員が行っているもので、必ずしも案文にあるような負の側面だけではないと考えます。

我々政清会は、教員の負担軽減については積極的に賛同するものがあります。もちろん、教員の意見だけでなく子供たちの意見や保護者の意見も大切であると考えます。当然、義務教育中における基礎学力の向上も必要であると考えております。しかしながら、最も重視すべきことは、他会派の議員が重視している学校のテストでよい点を取るのではなく、真に子供たちの将来にとっての最適解、具体的に言うならば、個々の資質を伸ばすとともに自分で考え行動できる力、社会において生き抜く力を身につけさせることであると考えます。そのため我々政清会は、土曜授業については、中断を意味する中止という不安定な状態ではなく、真に子供たちの将来のための最適解と教員の負担軽減を含めた検討の結果として、将来的に存続するのか廃止するのか、しっかりと結論を出すべきであると考えることから、この請願には反対いたします。